

市政協力委員 各学区会長と 門川市長が懇談



11月26日、下京区各学区の市政協力委員連絡協議会会長と門川市長との市政懇談会が開催され、下京区の更なる発展に向け、活発な意見交換が行われました。

連絡協議会を代表し、所代表幹事から、「地域コミュニティ豊かな下京区のみならず、地域活動の担い手育成などへのより一層の協力を」との挨拶がありました。

これを受けて、門川市長からは、日頃の市政協力委員活動へのお礼とともに、「京都には歴史や文化という財産があるが、それにもまして『地域力』という素晴らしい宝があり、それを支える人がいるからこそ、この宝が成り立っている。今年発生した集中豪雨や台風などの災害時に、地域コミュニティの重要性が再認識されたことから改めて、地域に暮らす皆様と共に支え合い、安心して快適に暮らすことができる地域コミュニティの実現に向けて、皆様と共に汗を流し、より一層京都が誇る地域力を高めていきたい」との強い決意が示されました。

古典を学ぶ～下京涉成小学校で、雅楽の演奏と舞～

11月22日、下京涉成小学校において、「いちひめ雅楽会」の皆さんによる、雅楽の演奏と舞が、児童に披露されました。この取り組みは、同小学校が、古典の日(11月1日)にちなんで日本の伝統文化の魅力を知ってもらおうと行ったもので、1年生から6年生までの284名が参加しました。

今回、協力をいただいた「いちひめ雅楽会」は、市比賣神社の宮司飛驒富久さんが、日本の伝統音楽としての雅楽を正しく伝承し広めていくことを目的に設立されたものです。当日は、飛驒さんをはじめ、同志社大学、立命館大学、龍谷大学、佛教大学、京都府立大学の学生17名が参加し、日頃の練習の成果を発表しました。

「とてもゆっくりとした、きれいな曲だと思いました。」など、限られた時間でしたが、雅楽のおもしろさに触れることができたようです。

また、いちひめ雅楽会の学生の皆さんも「正式な雅楽を体験してもらおうため、一生懸命がんばりました。みんなの楽しそうな顔を見て、私たちも満足です。」と、手応えを感じられたようでした。



管絃の演奏 舞楽の舞



楽器の演奏に挑戦する児童

「この楽器は、楽琵琶(がくびわ)といいます。後に西洋にわたりギターになりました。」子どもたちは、演奏の合間の飛驒さんの分かりやすいお話を真剣にまなざしで聞き、実際に楽器を手に取り、興味深そうに音を鳴らしてみたりしていました。

「今まで聞いたことがない音で、おどろきましたが、楽しかったで

下京 ALL STARS

下京区の各方面で活躍されている方々に仕事や下京への想いなどを伺う連載です。

今回は、京都の伝統産業である京小紋の技術と知識の習得・継承に長年取り組まれ、この度、平成25年度京都市伝統産業「未来の名匠」に認定された前田俊和さんにお話を伺いました。



前田俊和さん

(株式会社前仁代表取締役社長)

Q お仕事の内容について教えてください。
A 着物の染色業で、型紙を使った摺友禅の技法で「更紗」模様を染めているという点特徴になります。何十枚もの型紙を駆使し、お洒落な更紗模様の着物や帯を

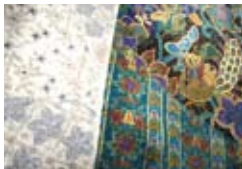
Q 細かな難しい作業のようですが?
A 型友禅は、最初に、図案と呼ばれる意匠(デザイン)を考案し、その図案を型紙に彫っていきますが、型紙は使用する色の数だけ必要になり、小紋一つで30〜40枚の型紙を作成する必要があります。機械でやっておられるところもありますが、うちでは、手仕事である伊勢の型紙を使って行っているところも、今回の「未来の名匠」の認定の際に認めていただいた一つではないでしょうか。最近、技術のある職人さんが少なくなりましたが、できるだけ昔ながらの伝統の技法で、とこのことにはこだわりを持っています。

Q 三代と続けられるのはなぜですか?
A 楽しい仕事ですね。日本の民族衣装である着物を、一人でも多くの日本人女性に着ていただきたい。ただ、やはり着物離れのあるなか、今までの着物の発信の仕方では、次の世代の着物を着る人はなかなか増えてこないと思います。伝統といっても着物も時代に合ったものを提案していく必要があると思っています。ファッション性のある着物を作りたいです。ただ、そこにはしっかりと伝統の技をきっちり使ったものでありたいです。更紗という図柄は、そういう可

能性を持っている図柄だと思います。洋服を選んでもらうような感覚で、着物を楽しんでほしい、そのような思いで色使いや柄を考えています。一方的な発信だけでなくお客様がどのようなものをお求められているかを知ることが大切だと思います。

Q 「未来の名匠」の認定を受けて、これから何を教えてください。
A 全国にいる着物ファンの方に新しいものづくりを常に提供し続けたいですね。また、自分が元気づけたい伝統の技と特徴のある染色の技法を次の世代にいかにつけていくかを今一番考えています。

※京都市では、1200年を超える悠久の歴史の中で脈々と受け継がれる匠の技を未来に継承し、今後の伝統産業界を牽引する人材を育成するため、京都市内で活躍する伝統産業中堅技術者を「未来の名匠」に認定する「京都市伝統産業「未来の名匠」認定制度」事業を平成22年度から実施しています。

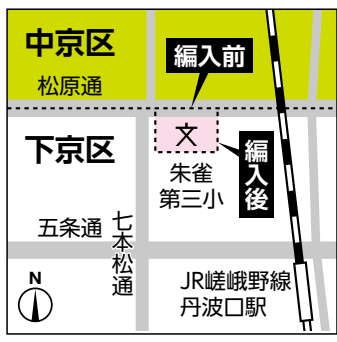


更紗模様の京小紋や帯

朱雀第三小学校を 下京区から中京区に編入

京都市内で唯一、小学校の所在地(下京区)と通学区(中京区)の行政区が異なる朱雀第三小学校において、行政区の不一致を解消するため、本年4月1日付けで朱雀第三小学校の敷地を下京区中堂寺北町から中京区壬生松原町に編入します。

☎ 市地域自治推進室区政推進担当 (☎ 222-3048)

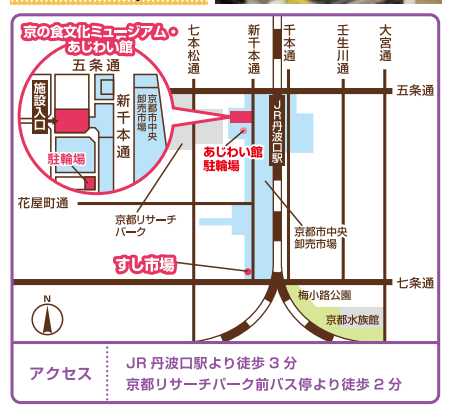


親子ふれあいクッキング ～京都らしいチョコスイーツ～ 2/11

「親子ふれあいクッキング」は、季節にちなんだ京都らしい料理を親子で一緒につくりながら、ふれあいを深めていただく催しです。

今回は、まもなくやってくるバレンタインデーとホワイトデーに合わせ、抹茶やきなこなど和の食材を使ったチョコスイーツづくりに挑戦! 皆様の参加をお待ちしております。

日時 2月11日(火・祝)
①午前の部(午前11時～午後1時) ②午後の部(午後2時～4時)
場所 京の食文化ミュージアム・あじわい館 (中央卸売市場第一市場内 京都青果センター3階)
対象 京都市内在住の小・中学生と保護者のペア
定員 各回とも16組(応募者多数の場合抽選)
参加費 1組1,000円
申込み 1月15日(水)から1月28日(火)までに電話、FAXまたはメールで「京都いつでもコール」(※番号は1面右下に記載)に申し込み。
FAXの場合は、「親子ふれあいクッキング」と明記のうえ、住所、氏名(保護者とお子様)、電話番号、ご希望の部(午前・午後)を明記して申し込んでください。
主催 下京区ふれあい事業実行委員会なかまづくり部会、下京区役所
共催 京の食文化ミュージアム・あじわい館 運営委員会
☎ 地域力推進室まちづくり推進担当(☎371-7170)



**区社協
からの
お知らせ**

「生活支援員」を募集

日常生活自立支援事業では、高齢の方や障害のある方が住みながら地域で安心して生活を送ることができるよう、「生活支援員」が家賃・公共料金、福祉サービスの利用料などの銀行払戻しと支払いのお手伝いや、日常の困りごとを受けとめる等の支援を行っています。

☎「生活支援員」は、月1回(4回程度)(1時間半程度)

の活動を行っています。下京区社会福祉協議会では、この事業の利用を希望する方が増えてきているため、「生活支援員」を募集しています。

地域の中の支え合いにより、みんなが安心して暮らせるように、あなたの力を貸してください!

募集期間 2月14日(金)まで
研修日・時間 2月25日(火)、3月4日(火)、11日(火) 午後1時30分～4時30分
※全日程の研修受講後、生活支援員として登録し、活動を行います。

☎下京区社会福祉協議会 (☎361-1008)